

参加者による中間時検証及び改良等

作成年月日：2026年 5月20日
作 成 者：吉原 秀明

＜基本情報＞

協定の情報	協定の名称	愛知県渥美外海域における底魚資源に関する豊浜漁協小型機船底びき網（板びき網）漁業の資源管理協定		
	対象の水域	愛知県渥美外海域		
	対象の水産資源	まだい太平洋中部系群（愛知県資源管理方針別記 9）、ひらめ太平洋中部系群（愛知県資源管理方針別記11）		
	対象の漁業	小型機船底びき網（渥美外海板びき網）漁業		
	協定の有効期間	令和 6 年 1 月 1 日から令和10年12月31日まで		
検証の日程等	中間時検証（有効期間の 2 分の 1）	終了時の検証	備考	
	令和 8 年度	令和10年度(予定)		

＜取組の概要と評価（対象の水産資源ごとに作成）＞

対象の水産資源名		まだい太平洋中部系群（愛知県資源管理方針別記9）						
対象水産資源の総漁獲量に対する 協定参加者の漁獲量の割合(令和6年)			令和7年度の資源評価結果より、2024年漁期の総漁獲量1,272トンのうち、底びき網漁業は683トン（53.7%）で、本協定参加者（6人）による漁獲量は167トン※であり、総漁獲量に対する協定参加者による漁獲量の割合は、約13%と推定される。※県の漁獲状況調査による。					
資源管理の 目標及び取 組内容等	資源管理の目標		国が行う資源評価において、高位の資源水準を維持する。					
	協定の取組内容及びその目的		毎週火曜日の休漁（12月の最終火曜日を除く）を実施することで、資源に対する漁獲圧を低下させる。					
	その他の管理措置		複数県による種苗放流の実施。					
履行の状況 ○:全参加者が履行 ×:上記以外		単位	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)	令和8年 (2026年)	令和9年 (2027年)	令和10年 (2028年)	備考
	履行状況	-	○	○	取組中	—	—	・毎週火曜日の休漁（12月の最終火曜日を除く）について、6隻全隻が履行した。 ・渥美外海域で小型機船底びき網（板びき網）漁業で同資源を利用する船は34隻あり、全隻がいずれかの資源管理協定に参加し、休漁の取組を行っている。2024年の全隻の漁獲量は、300トンで総漁獲量の23.6%を占める。
	参加隻数	隻	6隻	6隻	6隻	—	—	
	取組内容	休漁	毎週火曜日	毎週火曜日	毎週火曜日	—	—	
資源状況		令和7年度の資源評価結果では、0トンから最大資源量（2016年漁期）の間を3等分（高位、中位、低位）し、2023年漁期の資源量（8,330トン）から高位、資源動向は直近5年間（2019～2023年漁期）の資源量の推移から横ばいと評価されている。						
取組の評価		取組の効果が継続する ・効果はあったが改良が必要である ・効果は認められず改良が必要である ・想定外の外部要因により効果は判定できない （外部要因を考慮した取組の改良が必要）						
	評価内容	全隻、毎週火曜日の休漁を徹底することで、漁獲が過剰になることを防ぐことができ、資源水準も高位と目標を達成しているため、現在の取組を維持する。						
	取組の 改良点等	特になし						

対象の水産資源名		ひらめ太平洋中部系群（愛知県資源管理方針別記11）						
対象水産資源の総漁獲量に対する協定参加者の漁獲量の割合(令和6年)			令和7年度の資源評価結果より、2024年漁期の総漁獲量は306トンのうち、愛知県の漁獲量は89トン（29%）で、本協定参加者（6人）による漁獲量は11.2トン※であり、総漁獲量に対する協定参加者による漁獲量の割合は、約4%と推定される。 ※県の漁獲状況調査による。					
資源管理の目標及び取組内容等	資源管理の目標		国が行う資源評価において判断される資源水準を、令和10年までに、中位以上に回復させることを目指す。					
	協定の取組内容及びその目的		毎週火曜日の休漁（12月の最終火曜日を除く）を実施することで、資源に対する漁獲圧を低下させる。					
	その他の管理措置		複数県による種苗放流の実施。					
履行の状況 ○:全参加者が履行 ×:上記以外		単位	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)	令和8年 (2026年)	令和9年 (2027年)	令和10年 (2028年)	備考
	履行状況	-	○	○	取組中	—	—	・毎週火曜日の休漁（12月の最終火曜日を除く）について、6隻全隻が履行した。
	参加隻数	隻	6隻	6隻	6隻	—	—	・渥美外海域で小型機船底びき網（板びき網・改良備前網）漁業で同資源を利用する船は52隻あり、全隻がいずれかの資源管理協定に参加し、休漁の取組を行っている。2024年の全隻の漁獲量は、49トンで総漁獲量の16.1%を占める。
	取組内容	休漁	毎週火曜日	毎週火曜日	毎週火曜日	—	—	
資源状況		令和7年度の資源評価結果では、2001年以降の最小資源量と最大資源量の間を3等分（高位、中位、低位）し、2024年の資源量は低位、直近5年間（2020～2024年）の資源量の推移から資源動向は減少と判断された。						
取組の評価		取組の効果が継続する ・ 効果はあったが改良が必要である ・ 効果は認められず改良が必要である ・ 想定外の外部要因により効果は判定できない (外部要因を考慮した取組の改良が必要)						
	評価内容	休漁日を遵守した上で、さらに、出漁日数も減らしており、漁獲努力量は増加していない。資源が豊富なマダイを狙うことで、ヒラメに対する漁獲圧削減に努めている。資源低迷は、漁獲圧以外の要因が推察されることから「想定外の外部要因により効果は判定できない」と評価した。						
	取組の改良点等	特になし。						

＜資源管理協定全体の協定参加者による検証及び改良点等＞

判定	取組の効果があり継続する ・ 効果はあったが改良が必要である ・ 効果は認められず改良が必要である ・ 想定外の外部要因により効果は判定できない (外部要因を考慮した取組の改良が必要)
検証内容	休漁の取組によって、マダイ資源は高位水準を維持している。ヒラメ資源は、系群全体としては、低位で減少傾向にあるとの評価だが、努力量を削減しているにも関わらず資源が回復しないため、漁獲圧以外の資源減少要因が考えられる。資源評価では、2021年以降加入量が低下し再生産成功率が低下（環境要因）していることを指摘している。現在の取組は両資源に対して有効に働いていると考えられるため、現在の取組を継続する。

※ 以下、該当する場合に作成

＜資源管理協議会等による検証を受けての対応＞

記載年月日： 年 月 日

対応	－
----	---

資源管理協議会等による中間時検証

＜資源管理協議会等による検証＞

記載年月日：2026年 6 月29日

判定	取組の効果があり継続する
検証内容	まだい太平洋中部系群については、資源管理の目標を達成しているため、取組の効果がたと認められる。取組内容については、計画を上回る休漁に取り組むことでより漁獲圧を低減している。資源管理の目標は、愛知県資源管理方針に基づいており、いずれも継続が妥当と認められる。このため、「取組の効果があり継続する」と判定する。ひらめ太平洋中部系群については、「想定外の外部要因により効果は判定できない」と判定されたため、協定全体として「取組の効果があり継続する」と判定する。 ＜想定外の外部要因により効果は判定できないと判定された資源とその具体的な外部要因＞ ひらめ太平洋中部系群は、計画を上回る休漁に取り組んだことに加え、資源の豊富なマダイを狙う等、ヒラメに対する漁獲努力量を減らしているが、資源が回復しないことから、漁獲圧以外の資源減少要因が考えられた。一因として、資源評価では、2021年以降加入量が低下し再生産成功率が低下傾向（環境要因）であること、遊漁の資源に対する影響も無視できない大きさであることが指摘されており、漁獲圧以外の資源減少要因が考えられた。以上ことから、取組の効果が判定できないと認められ、「想定外の外部要因により効果は判定できない」と判定する。